

視察報告書 町田市議会 無所属会派 吉田つとむ記 2023.07.19

川西町（災害復旧、川西ダリア園）

<概要>

山形県県南地域にある置賜郡川西町と町田市はダリア園を通じた縁を持っており、また、以前は町田市内の子どもさんたちを山村留学で預かっていただきました。

そうした縁で、お互いに「災害地における相互援助に関する協定」（1995年10月22日締結）を結んでおり、その関係で、昨年の大水害による被災の救援が行われました。町田市の支援内容は、町田市が作成した「令和4年8月3日からの大雨」に係る被災地支援の状況について>

<https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/koho/kisyakaiken/2022/20220810.files/0810-3.pdf> に記載されています。

今回は川西町の側から見た、災害復旧支援状況を見ることにしました。

また、今回の被災では、川西ダリア園自体も大きな被害にあって、今年の開園の向けての準備状況を見せていただきました。



川西町議会の委員会室



改めて、原田俊二 川西町長

さらに、被害にあった地域の復興、復旧はまだまだ十分でなく、その復旧状況も、原田町長ご自身も含めた方々から、議会内の委員会室、及ぶ被災現地で説明を具体的にさせていただきました。町田市と町田市民に向けた災害支援の感謝を含めてのことだろうと思いました。

（追加動画）災害復旧工事が進む：山形県川西町大字小松地内の大雨災害復旧現場で、原田町長が被害内容と復旧状況と今後の見込みを述べる 2023.07.18

[https://youtu.be/C7\\_fake\\_XV8](https://youtu.be/C7_fake_XV8)

（説明）災害復旧工事が進む：山形県川西町大字小松地内の大雨災害復旧現場で、原田町長が被害内容と復旧状況と今後の見込みを述べる 2023.07.18 川西町の多数の場所で水害は起きましたが、この場所は橋が流され、1年後に復旧が進められています。吉田つとむ発見動画チャンネル



なお、川西町では、以下の方々が会議、現地説明でご参加いただきました。  
順不同で記載しますが、原田 町長、前山 安全安心課長、近 住民課長、有坂 会計管理者・税務会計課長、内谷 産業振興課長、斉藤 商工観光主幹兼商工観光主査、さらに、議会では、井上議長、大友 議会事務局長の方々を始め、大勢の方にご協力をいただきました。

なお、今回の視察には、幹事長を務める松岡みゆき議員が欠席しました。視察日程の直前、足を骨折するけがを負い、しばらく療養することになったためでした。

#### <所感>

##### (災害ごみ収集と町田市の支援)

まず、災害支援で、町田市は環境資源部の人員、ごみ収集課のごみ収集車両（パッカー車と小型トラック）が8月8日から出動していました。期間は20日までで、合計4回、毎回6人体制で、現地支援は連日支援活動を行っています。双方の文書、説明資料で確認することができます。

また、重要なことですが、川西町には他に、奈良県川西町と、兵庫県川西市から、同様な応援（同名の川西と言う名称の自治体の交流）が、お盆明けに入っています。さらに、その他に、山形県市町村広域相互支援も、お盆明けに入っています。



(左) 町田市が派遣した市職員、(右) 兵庫県川西市が派遣した人員と車両  
上記の 2 枚は、説明資料スライドを撮影した写真

一方で町田市は被災後の初動部分(8月8日)から入り、災害ごみの発生に関して、その処理と処分に関して土台を作ったとの説明がありました。町田市は阪神大震災(西宮市)や長野市水害の救援などで、ごみ処理の救援を行った経験のノウハウが蓄積されているためのもものと理解しています。さらに、町田市は前市長時代に、ごみ収集の民間委託を図る計画を量り、現市長になって導入しましたが、その一部を直営で実施していますが、こうした災害出動や自前のノウハウを維持する目的もありました。今回も、町田市の直営部門が支援出動に参加しています。

その内容では、技術的アドバイス【効率的に動く・次のことを考える】では、最速運搬方法の提案、可燃・不燃ごみ等の施設搬出わけ、仮置き場の設備期間の設定、土日の受入施設の確認が記載されていました。

この点から、町田市が災害支援に関して、東日本大震災では、東京都の指示待ちで動いたことにより、関東の主要自治体では支援の初動が遅れた行動になりました。\*災害復旧のノウハウが十分に蓄積されなかった点が不足でした。また、町田市は「中核市」相当の都市規模ですが、その組織にまだ入っていないために、その「災害地における相互援助に関する協定」相当の関係を持った自治体の広がりを持たないという体制にあります。再三、指摘しますが、町田市の腰は重く、東京都の配下で動くのみが似合っているという発想なのでしょう。今後は、いくらか中核市参加に関しては、前向きになることを願っております。

(り災証明、被災証明の家屋調査)

町田市の応援は8月9日にスタートしています。川西町が8月8日にスタートしていることから見ても、町田市が行った災害支援は初動体制が進んでいるものと思います。町田市は5人が参加し、全員が3班に分かれて現地調査活動をしている予定表を頂きました。現地戦力として扱われていることが、その派遣目的を満たしていることの現れと思われまます。

川西町では、8月12日(金)から14日(日)から1班(A班)を除いて編成されていることが確認できました。「お盆」ということがこの業務に関して、様々

に影響していると思いました。



町田市が派遣した人員とパッカー車

町田市が派遣した人員とトラック



集積所の写真

### (道路復旧、堤復旧)

川西町はため池の水をくみ上げて、灌漑の用水とされているとのことでした。それらが溢水したり、あるいは決壊したりして、住宅地に浸水被害を大きくもたらしたということでした。上記の(り災証明、被災証明の家屋調査)は、それらの被害につながるものでした。

私たちが現地視察した場所は、川西ダリア園のすぐ傍でした。

ため池の縁の一角が流水で大きく崩れていました。また、ダリア園に至る道路が修復中であり、橋は架け替え工事がようやく済みかけたところで、その日まで1年近くが経過していますが、通行できず、ダリア園と宿泊施設の「ゆのか」に至るにはう回路を回って行き来する状態でした。

また、川西ダリア園脇の水路は、そのまま復旧工事が行われても、今回の水害の規模には対応できないという課題が残っていましたが、国費の支援の見込みを含めて、全面改良はなかなか期待しにくいという状況であることが推量されました。



道路の復旧と法面の補強工事が進む

溜池の堤防損壊工事が進行中

(川西ダリア園)

川西ダリア園では、昨年 8 月の大雨で施設の大半の畑が影響を受け、ダリアにも流水を被り、球根から被害にあったとのことでした。今は今年の開園（8 月 1 日）に向けて、慌ただしい花の世話をされているところでした。

町田ダリア園ともども多くの来訪者があることを願っています。



水に浸かったダリア園説明資料を撮影

8 月 1 日の開園準備中の光景



川西町 原田市長、井上議長よりご案内